

(10) 通常の学級(LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥多動性障がい))

①LD、ADHDについて

LDとは、知的発達の遅れは見られないが、特定の能力に著しい困難を示すものです。また、ADHDとは、注意力に様々な問題があり、又は、衝動的で落ち着きのない行動により、生活上、様々な困難に直面している状態をいいます。両者ともに発達障がいに分類されます。

LD、ADHDについては、通常の学級の中で十分な配慮を行った上で、必要であれば、通級による指導を行うことができるようになっていきます。



LD、ADHDの児童生徒は、こんなことに困っています。

- ・板書写すのが、間に合わないよ。
- ・また忘れ物をして、おこられちゃった。
- ・先生の話が長いと集中できないよ。どんな話だったか分からなかったな。等

②LD、ADHDの児童生徒との関わり方や各教科等における配慮事項

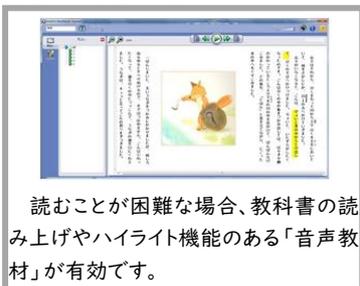


<LD>

- 児童生徒の得意な活動や障がいにより苦手な活動を十分に把握します。
- 得意な能力を生かした活動ができるように工夫します。苦手な活動に対しては、周囲の理解を図るとともに、できる限り自分の力でできるような支援の手立てを工夫します。
- 具体的に簡潔な言葉で話すとともに、実物やVTR、写真、絵カード等の視覚的な情報を活用します。
- 文字を示す時には、読みやすい大きな文字や色を使うようにします。不必要な文字は黒板から消すなどして、必要な情報を厳選して提示します。

<ADHD>

- 聞き落としや見落としをしないように、教師に注目していることを確認してから話したり見せたりします。また、一度に多くのことを伝えようとしないで、一つのことを簡潔に伝えるようにします。
- 一つ一つの活動が短く区切られ、先の活動が終わった時には次にやる事が明確に分かっているようにします。
- 忘れても思い出せるように、指示内容は簡潔に書いて提示します。少しずつ、児童生徒が自分でメモを取るようになっていきます。
- 好ましくない行動をした時には、その行動がよくないことを短く簡潔に伝え、どのように行動することがよいのかを具体的に伝えます。
- 興味の対象が移りやすいので、活動に不要なものは片付けておくように努めます。



読むことが困難な場合、教科書の読み上げやハイライト機能のある「音声教材」が有効です。



カレンダーのポケットにメモを入れ、大事な予定などを思い出せるようにします。



卓上パーテーションで、見えるものを軽減し、集中を高めることができます。

独立行政法人特別支援教育総合研究所ホームページ「特別支援教育教材ポータルサイト」

(11) 通常の学級における「分かる」「できる」指導の工夫

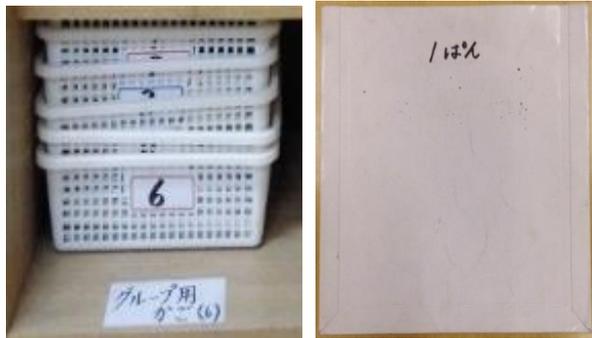
①教室環境



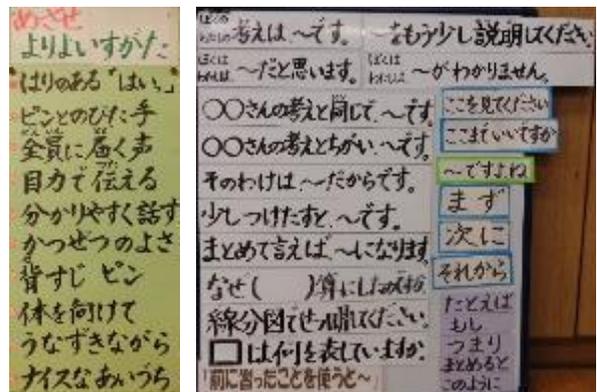
ロッカーの整理整頓の仕方を指導します。乱れる前にロッカーのチェックを呼びかけることで、整理整頓への意識が高まります。



普段使う文房具等は、使いやすく片付けやすいよう、何が入っているか視覚的に示します。



班ごとにかごやクリアファイルを用意しておくことで、プリント等が落ちたり散らかったりすることなく、スムーズに集配できます。



育てたい児童生徒の姿や対話のスキルを具体的に示すとともに、教師がモデルとなり、授業や学校生活の中で意図的に使用します。

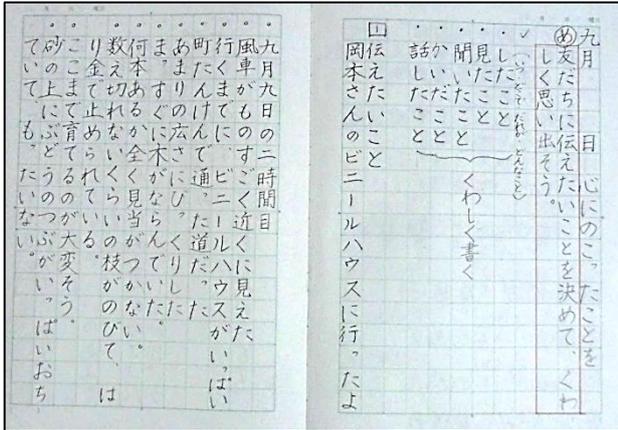


休憩時間などちょっとした時間に、学習した内容で遊んだり、さらにチャレンジしたりできるようなコーナーを作ります。

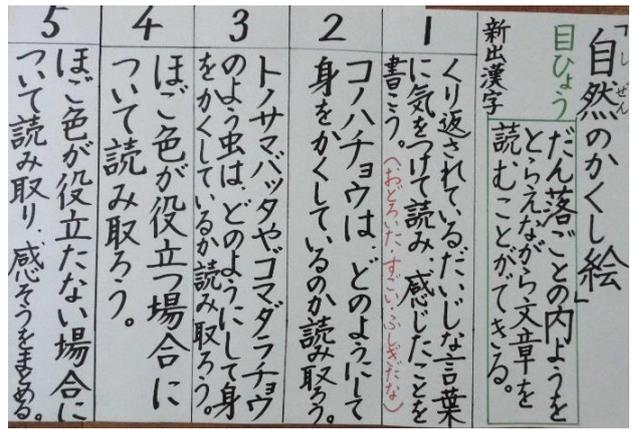


一日の終わりには机まわりを整理整頓し、明日を気持ちよく始めることができるようにします。テーマソングを流し、1番が終わるまでに片付けるといった時間への意識の高め方もあります。

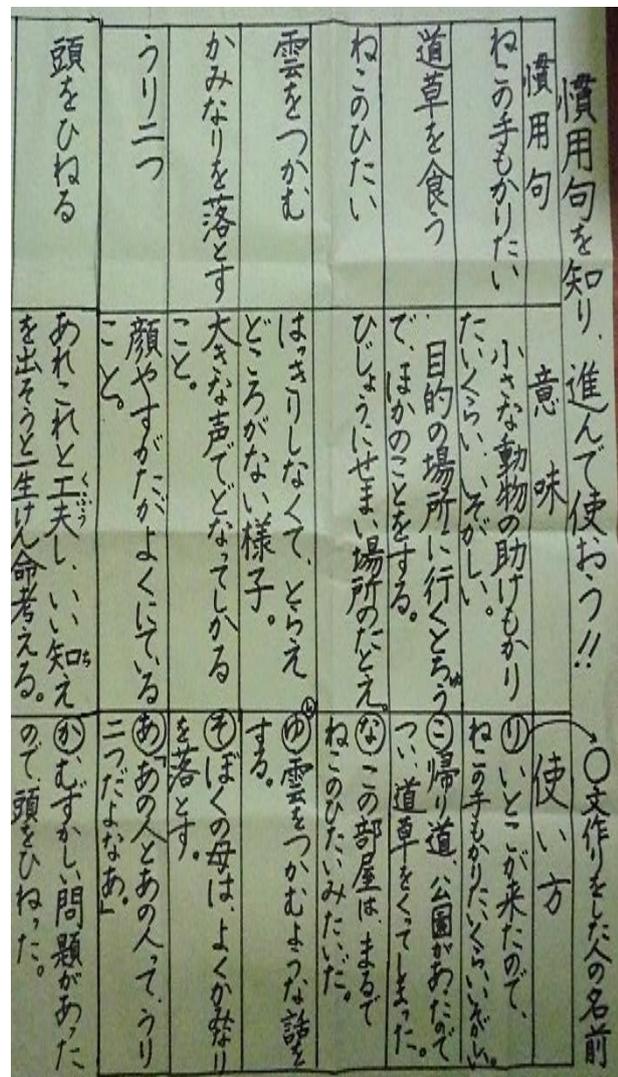
②国語における指導の工夫



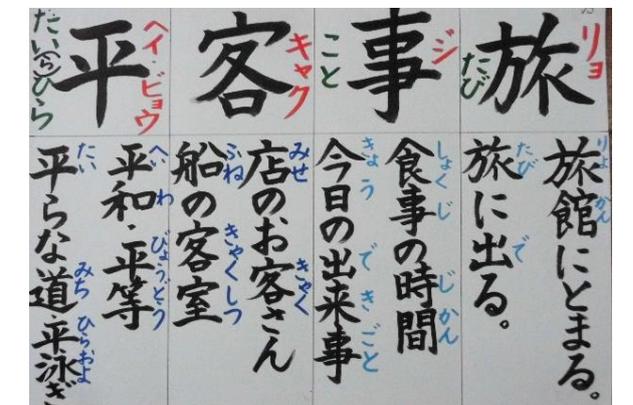
毎時間の板書計画を立てることが授業づくりにつながります。学年団で取り組むことで、お互いの研修にもなります。



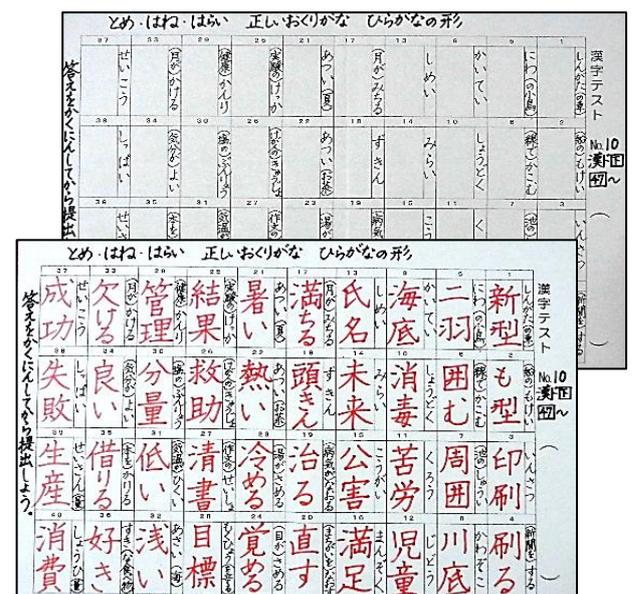
単元の学習計画を示すことで、単元に見通しを持ち、安心して主体的に学習に向かうことができます。



黒板に模造紙を貼り、模造紙に板書することで、授業後も繰り返し活用できます。発言者の名前を「㊦」等で示すことにより、児童生徒の自己肯定感を高めます。



新出漢字を正しく覚えることができるよう明瞭に示します。色を効果的に使い、通年同じし方をすることで、学びが積み上がります。



宿題の漢字テストは答えを一緒に配布し、答え合わせで、漢字を正しく確認できるようにします。

③算数における指導の工夫

①答えが10をこえるわり算
 ②答えが10をこえるわり算のしかたを考えよう。()

□ 3こで60円のガムがあります。ガム1こ分は何円でしょう。

式 $60 \div 3 = 20$ 20円

□ 10円まで考えると
 ① 10個 (10個) 10が(6÷3)→10が2
 □円

② ① $60 \div 2 = 30$ (10個) (10個)
 ② $80 \div 4 = 20$ (10個) (10個) (10個) (10個)
 ③ $40 \div 2 = 20$ (10個) (10個)

③ $60 \div 3$ は10が(6÷3)と考えると九九が使える。

④ $69 \div 3$ の計算のしかたを考えよう。

$$\begin{array}{r} 69 \\ 3 \overline{) 69} \\ \underline{60} \\ 90 \\ \underline{90} \\ 0 \end{array}$$

$60 \div 3 = 20$
 $9 \div 3 = 3$
 23

□ ① 10個 (10個) (10個) (10個) (10個)
 ② 10個 (10個) (10個) (10個) (10個)
 ③ 10個 (10個) (10個) (10個) (10個)

⑤ ① $139 \div 3 = 46$
 ② $266 \div 3 = 88$
 ③ $384 \div 4 = 96$

⑥ ① $180 \div 2 = 90$
 ② $90 \div 3 = 30$
 ③ $70 \div 1 = 70$

⑦ ① $28 \div 2 = 14$
 ② $77 \div 7 = 11$
 ③ $96 \div 3 = 32$

毎時間の板書計画を立てることが授業づくりにつながります。学年団で取り組むことで、お互いの研修にもなります。



よく使う教材・教具は、あらかじめ複数用意しておく便利です。



かけ算九九のシートなど、よく使うツールは複数用意しておき、机間指導しながら必要に応じて渡します。いつも使用する児童生徒には、自分に必要なツールと納得した上で持たせましょう。



短針・長針は取り外し可能

短針と長針の裏に磁石を付けることで、すばやく時刻を示すことができます。

一億の位	千万の位	百万の位	十万の位	一万の位	千の位	百の位	十の位	一の位
------	------	------	------	------	-----	-----	-----	-----

全部の数 ÷ いくつ分 (人数) = かたまり (1つ分の数)

全部の数 ÷ かたまり (1つ分の数) = いくつ分 (人数)

かたまり (1つ分の数) × いくつ分 (人数) = 全部の数

色を効果的に使い、数や式を整理します。児童生徒の思考も整理されます。

3年 円

半径 (はんけい)
 円の中心
 直径 (ちけい)
 円の半径

円のまん中の点
 円の中心
 中心から円のまわりまでひいた直線
 円の半径

中心
 半径
 半径
 円の直径
 直径は半径の2倍

3年 球

中心
 半径
 直径
 切り口は円
 球を2つに切ったときの切り口の円が一番大きい。

直径は、円の中にひいた直線の中で一番長い。

図の示し方や説明を統一することにより、既習事項を関連付けやすくします。